

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174300517		
法人名	医療法人社団 田中医院		
事業所名	グループホームらべんだあ・なでしこ (らべんだあ)		
所在地	厚岸郡厚岸町門静1丁目76番地		
自己評価作成日	平成27年1月25日	評価結果市町村受理日	平成27年3月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174300517-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174300517-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成27年3月9日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人であり、毎日、医師の往診、看護師の処置がありいつでも診療が受けられるという特色のもと利用者様及びご家族にも安心した環境を提供することが出来ています。また、施設内の運動場を利用し法人の技師より適切なアドバイスを受けながら機能維持のための運動も行うことが出来自立支援に向け努めています。夏祭りや避難訓練時には地域住民の方にも案内状を配布し参加いただき地域との交流も図っております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

**<職員の就業環境の整備>**  
職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、希望休の取得や労働時間、シフト調整や段階に応じた研修の機会の確保などで職場環境・条件の整備に努め、職員の離職率は低く、継続したケアサービスを提供して適切な医療の提供を受けられるよう支援し、家族等との信頼関係が厚いことが利用者・家族アンケート結果から伺える。

**<身体機能の維持及び意欲向上への取り組み>**  
母体医療法人とグループホームをWEBカメラで結び、OT監修の運動メニューを入居者に個別に提供して、体調を崩して車いすだった利用者が自信や意欲を取り戻したり、不穩の解消や昼夜逆転の改善など身体機能の維持及び意欲向上等への成果を挙げている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員室、居間等壁の目に入る場所に掲示し一人一人が常に心に留め業務に当たっている。	事業所独自の理念をつくりあげ、法人内研修やカンファレンス等を通じて共有して実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	GH夏祭り、避難訓練等行事の際は、近隣住民の方に案内状を送付し積極的にお誘いし参加していただくことで交流を図っている。また、町の行事や法人内デイサービスの慰問行事の参加も行っている。	獅子舞やフラダンス、歌謡ショー等での地域ボランティアとの交流や事業所主催の夏祭りの開催、地域の文化祭やお祭り参加などで地元の人々との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人の家族報告会にて認知症について発表会に参加していただくことで認知症を知る機会としている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練、行事、他事業所報告会等の際に行うことでGH、法人全体で取り組んでいることを知っていただき、それについての意見をいただき質の向上に努めている。	運営推進会議を2か月毎に開催し、認知症サポーター養成や利用状況等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括会議への出席もあり。月に一度の介護相談員様の来所の際には現状を見ていただいたり、利用者様の声を聞いていただき相談員様から意見をいただき質の向上に努めている。	地域包括会議での情報交換や行政の介護相談員が毎月来訪して相談・助言、直接利用者と話し合う等で協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待、身体拘束の資料を定期的に回覧することで常に念頭におきながら業務に当たっている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を接遇等の内部研修会を通じて正しく理解しており、高齢者虐待や身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の参加、出席した職員からの報告会等を用いて、学習の機会とすることで防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待、身体拘束の資料を定期的に回覧することで常に念頭におきながら業務に当たっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に納得していただけるまで説明を行い、入居前入居後も質問、疑問に随時対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の介護相談員の来所の際に利用者様の声を聞いていただいている。気がついた点は、職員に伝えてくださるのでその内容を会議の中で話し合い反映していくよう努めている。	利用者・家族等が意見や苦情、要望等を言い表せるように家族会での意見交換等で、その機会を設けている。また、苦情等を第三者に申し出られるように連絡先を明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングのほか必要に応じて会議を設けている。また、個別面談や日々の業務の中でも職員の声を吸い上げ運営に活かしている。	個人面談の実施やカンファレンス、日々の業務を通じて職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修等の参加に対する積極的な働きかけや参加した内容の全体報告に対する評価等を反映していることでやりがい、向上心に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内学習会や、研修会に積極的に参加し、知識の習得に働きかけている。勤務上参加できない職員にはミーティングの際に伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等、交流会に積極的に参加することで同業者との交流の機会を持てるようにしている。そこで得た情報などを持ち帰り質の向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学に来ていただくなどして実際に環境に触れていただき、ご本人の思いを聴き不安な点の改善や援助に努めることで関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安、要望を十分に聴く事で信頼関係を築く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の思いを聴き必要に応じた情報、支援提供に努めている。その際、作業療法士、理学療法士等専門職からの指導も受けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自身でできることは協力していただき、他者のことでも助け合えるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等の際にご家族に参加いただいたり協力が得られる際には、外出支援等を通し関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援などで馴染みの店舗に出掛けたり、ゆかりの地にお連れしたり、ご本人の希望がある際には、ご家族に連絡をとり自宅にお連れすることで関係が途切れないように支援を行っている。	自宅への帰宅やお墓参り、地域のお祭り等の行事参加や買い物など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ趣味や気の合う方々との関係を大切にするため、時間帯や共有スペースの工夫を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても行事参加等呼びかけ、継続した関わりが持てるよう配慮している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話、言動等から気持ちを知り、ご本人から聞き取れない場合にはご家族、知人から情報をいただき把握に努めている。	日々の会話の中や家族からの情報で一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの物や生活歴、生活環境等をご本人、ご家族から情報収集し職員間で共有することで以前と変わらずに生活を送れるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムを把握し、ご本人の出来ること、スタッフの支援があれば出来ることを見つける努力をしている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーと各担当者による定期的なカンファレンスを行い、ミーティングで職員全体が周知する。介護計画をご家族に説明し同意いただいている。身体状況に変化があった場合には随時介護計画書の見直しを行っている。	本人、家族の意見や要望、主治医や看護師からの指導や助言、カンファレンスを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や業務日誌への記載のほか、勤務者の引継ぎ事項を職員間で共有し実践し介護計画に反映している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の必要性に応じ、利用者様の受診やご本人の希望時には、ご自宅への送迎等、柔軟に取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出張理・美容サービスを依頼したり、図書館バスを利用し趣向に合ったものを借りられる等の支援を行っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日曜・祝祭日を含めた毎日、主治医の往診を受けており看護師の来所もある。必要時は、他医療機関への紹介もすぐにできるような体制で支援している。	受診は本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、往診や訪問看護の利用等で適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、来所していただいております。体調の変化等は常に伝えることが出来、主治医にもすぐに連絡がとれるよう体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	一人一人のADL状況、既往歴、治療内容などをひとつにまとめておき入院時すぐに病院関係者に提供できるようにしている。また、入院中にはこまめに足を運び、情報をいただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明や、定期的に主治医との個別面談にて今後の方針を共有、ご家族の意向を聞き支援にあたっている。体調急変時には対応をより密にし連携をとっている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い、母体医療法人と連携し、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○これまでの暮らしの把握 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師から指導をいただき対応にあたっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回地域住民にも呼びかけ、避難訓練を実施している。その際、消防から消火訓練や避難誘導の仕方について学んでいる。	消防署の協力を得て実施する年2回の火災避難訓練には、自治会役員や近隣住民、家族等が参加している。また、スプリンクラーや火災報知器、通報装置の設備が完備し、直火の使用は無く、緊急時の備えに自家発電も設置している。	

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレなどの声かけの際はご本人に聞こえる程度の声量とし、居室での排泄具の交換の場合は戸を閉めプライバシーに配慮している。馴れ馴れしい呼び名はしないことを徹底している。	接遇等の法人内研修会の開催等で一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	能力に応じて、衣服、飲食、余暇活動の選択をしやすい雰囲気作りを心がけて工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思をうまく伝えられない方々には、表情や普段の生活パターンから意思を汲み取り決して職員側の都合の押し付けにはならないようご本人のペースにあわせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人希望の美容室に出掛けたり、外出できない方々には、出張理・美容をお願いし、支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の見守りのもと個々に調理の下準備や盛り付け、配膳等出来ることを分担して行うよう支援している。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に食事の下準備や盛り付け、配膳等を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立表を使用し栄養バランスに留意している。。食事、水分量は個別に記載することで適切な量の把握に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔洗浄の促し、口腔内の磨き残しの確認や能力に応じた介助を行い、清潔保持に努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し排泄パターンを把握し促しやトイレでの排泄ができるよう声をかけ支援をしている。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、声かけや誘導等でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳等の提供、慢性的な便秘は医師、看護師に相談し適切な便秘薬を使用している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に添い日時を決めている。また、羞恥心のある方には同性にて入浴介助を行っている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて柔軟な支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、気持ちに配慮しながら、希望に添い対応している。居室に拘らず居間ソファや共有スペースなどご本人の希望を尊重している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個別ファイルに綴じ用法、用量、副作用等の周知に努めている。新規の薬が処方された際には記録に残したり薬袋にメモをつけ職員間で情報の共有をし、より詳しく状態の観察を行っている。服薬介助にはチェック体制を強化している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、洗濯物干し、たたみものなど、一人一人得意なものが日常での日課となり取り組んでいる。また、外気浴、外出等の支援を行い気分転換を図っていただいている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩など近場の外出の希望時には、すぐに対応できるように努めている。事前に外出の希望があった際には、家族等の協力も仰ぎながら出来る限り希望に添い支援している。	自宅への訪問やお墓参り、地域のお祭り見物や外食など普段では行けない場所への訪問や散歩、買い物、野菜の植ええや花壇の手入れなど戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布をお預かりしている方でも外出時には財布をお渡ししご自身で会計ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望時以外でも、言動から必要と思われる際にはさりげなく声をかけ、電話の取次ぎをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季にあわせた装飾を華美にならないこと、幼稚にならないことに留意し利用者とともにやっている。また、利用者の作品や写真などを見やすいように掲示目に留め楽しみながら暮らせる環境にと配慮している。	共用空間には、季節毎の飾り付けや行事参加の写真の掲示等で生活感や季節感を採り入れて、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースを一つにせず、一人で過ごせたりその時々で気の合う数名で過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく使い慣れたものや馴染みのものを持参していただくことで、不安なく過ごしていただけるよう工夫している。そのほかに必要になったもの等は、ご家族にお話し購入していただくこともある。	居室には、仏壇や使い慣れた家具などの馴染みの品が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常にリスクを考えながらも自立した生活が送れるよう援助している。日用品や趣向品は、利用者様がわかりやすく、取り出しやすい場所を決めて保管している。		

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174300517		
法人名	医療法人社団 田中医院		
事業所名	グループホームらべんだあ・なでしこ (なでしこ)		
所在地	厚岸郡厚岸町門静1丁目76番地		
自己評価作成日	平成27年1月28日	評価結果市町村受理日	平成27年3月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174300517-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174300517-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成27年3月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内にある運動場を利用し法人内の専門職の助言、指導を受けながら身体機能の維持、向上に努めている。又、デイサービスとの連携により慰問行事等への参加や町主催の夏祭りに参加したり文化祭に作品を作り出展したりと地域住民の方との交流の場への参加も行っている。  
医療法人の為、医療との連携もとれており、看護師による毎日の確認にて体調管理等の体制も確保できている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点	
-------------------------	--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ一人ひとりが理念を携帯いつでも確認できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の文化祭、お祭り行事やデイサービスの慰問行事に参加を行ったり、法人主催の家族報告会やグループホーム主催の避難訓練等の案内を出し、参加の呼びかけや交流を図れるよう取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用案内のチラシやパンフレットに気軽に相談対応出来る事を呼びかけたり、運営推進会議を利用しキャラバンメイトの講習会を実施したり地域包括の家族介護者のつどいに参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見や要望を取り入れサービスの向上に繋げるよう努めている。また、地域、保険者、家族の方々に参加し意見を頂ける様、行事等の併用も含め取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括会議に出席し、行事等には声かけ行い参加して頂き相談しやすい関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険を認識できない利用者については、家族に現状の報告、説明、話し合いを行い書面にて承諾を得て居室での臥床時にサイドレールを使用している。現況では玄関に施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会に参加したり、ミーティングにて話し合いを行い、各自が虐待への意識を高め防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人事務長に相談し弁護士等より意見を頂き、学ぶ機会を設け活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時の説明は時間を掛けて丁寧に説明し確認をしながら理解して頂けるよう行っている。契約内容の他にも考えられるリスクや必要経費についても理解して頂けるよう十分に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時や、運営推進会議で意見、要望、苦情が言えるような雰囲気作りを心がけている。又、出された苦情、意見、要望は書面や申送りにて反映しミーティングにて話し合いを行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議にて意見を出し合える機会を設けている。又、連絡ファイルを活用しての意見を出せる環境も設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望の研修会参加や促し、資格取得への奨励や援助、手当等説明、法人内での無記名のアンケート等も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会参加者は法人内にて伝達講習会を開催し参加できない職員への配慮を行っている。又希望の研修会には参加できるよう対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会の研修や学会に参加しネットワークを広げ、伝達講習会やミーティング等にて意見を出し合い質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活状況を把握する為、事前に面談を行い不安の無い様に本人の要望、家族による情報、要望を聞くようにし、入居の時点で出来るだけ叶えるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安、要望の聞き取りを行い、本人との思いの違いを把握し、本人にとってのより良い環境を作る為に説明や話し合いを行うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用予定者、家族に見学に来て頂き、十分に説明すると共に、本人、家族が必要とする事を事業所として出来る限りの支援を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生経験豊富な高齢者より教えて頂くという基本姿勢で接するよう努め、尊敬の意を持っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望や、スタッフの思いを伝える事で、家族の思いも知ることが出来、協力関係が築けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域施設の有効利用やDSとの連携を行ったりし、家族と協力し合い支援出来るよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り作業や活動と一緒に行事によって、孤立せずに助け合いや意欲の向上に繋がるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事等の案内状の発送を行い連絡し、気軽に足を運んで頂きフォローや相談の支援が行えるよう働きかけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中で本人の声に耳を傾け把握するように努めている。又、困難な場合は家族からの情報や希望を取り入れて、本人の立場で考えるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人は勿論、家族や親類の方、友人、知人からも情報を頂き本人が生活しやすいよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、その時の心身状態を観察している。又、様々な活動を提供する事で趣味や特技を把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の要望や家族の思いを理解し取り入れ、担当者主体となり月に一度全職員にてモニタリング、カンファレンスを行っている。身体状況等が変化した時には見直しを随時行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や業務日誌、連絡ファイル等にて情報を共有し計画担当者へ伝え、活かせる様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の通所介護施設と連携したり認知症通所介護施設の再開により取り組めるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館バスの利用や町の文化祭への出展、通所施設の行事の案内等にて協力を得て参加し対応出来るよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医医師の訪問診療を受けており関係を密にしている。又、日曜、祝日についても連絡の取れる体制にあり、看護師も毎日往診に来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等によって相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は毎日(日曜、祝日含む)来所している為スタッフが些細な事でも気軽に相談できる関係が出来ている。又、看護師と医師とも連携が密に取れる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活状況、既往歴等の情報を提供している。主治医と連携し家族と情報交換を行いながら対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を大切にしながら医師、家族、職員による説明、話し合いを行っている。又、急変時には医療機関との連携を図り状況の変化がある事に医師、職員が都度説明し支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指導を受け、利用者のリスクについて確認し、ミーティング等にて話し合いを行っている。又、緊急時対策マニュアルを用意している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を地域の方や利用者と一緒にいき安全に暮らせるよう取り組んでいる。又、近隣の方々にも緊急時連絡網に登録して頂き協力を頂いている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングで話し合い、利用者のプライドやプライバシーを損ねない対応をするよう心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定しやすい声かけをするよう心がけている。また、意思表示の困難な方には、声を掛け表情を見ながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムはあるが、都度声かけを行い本人の意思や体調を確認しながら支援出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族と協力しながら本人馴染みの理・美容室へ出掛けたり、訪問理美容のサービスを利用している。又、身だしなみも整えるよう声かけを行い支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備や盛り付け、片付け等利用者に負担になら無い様役割を分担したりスタッフが見守りや一緒に行い、意欲向上に繋げている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立を使用し、食事摂取量や水分量を毎日記録し、体重測定も毎月実施している。又、記録を報告し栄養指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ行い口腔ケアや義歯洗浄を行っている。又、夜間は義歯をお預かりし洗浄液につけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し時間や様子観察等にてトイレ誘導の声かけや対応を行うよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リハビリや体操、歩行運動等に参加して頂く様働きかけたり、水分や乳製品の提供を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意思を確認してから対応するように努め、無理強いせずに希望を取り入れるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促したりし安眠できるよう努めている。又、ホットミルクの提供や季節に合わせた寝具を使用したりし対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報のファイルを作成しスタッフが内容を把握できるようにしている。又、誤薬防止の為準備、チェックの2重確認を行い飲み込みまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	声かけや会話より情報を引き出し、興味のあるもの等を把握し楽しみながら行えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や法人内他施設の協力を得ながら本人の希望を確認しドライブや外気浴等に出掛けるように努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、本人と確認しながら対応するように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の所持等気兼ねなく出来るよう対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に季節を感じる装飾作りを行い窓や壁に飾ったりコーナーを作ったりして対応している。又、窓から見える場所に草花を植え季節を感じて頂けるような環境作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子を所々に配置し寛げるような空間の場所作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、使い慣れた物の持参の説明を行い、写真を飾ったり、小物の装飾にて対応するよう務めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の出来る事、出来ない事、状態等を把握し、安全確保と自立への配慮に努めている。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホームらべんだあ・なでしこ

作成日: 平成 27 年 3 月 10 日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	48	利用者と一緒にいる事が、特定の人に限られてきている。	利用者の出来る事を見つけていく。	出来ないと決め付けずに出来る為にはどの様にしたら良いのかを考えて働きかけていく。普段行っている利用者は他の役割や楽しみを見つけられるように取り組んで行く。	1年間
2	57	利用者に関わるよう意識しているが、関わる時間をあまり持てていない。	利用者に関わる時間を増やす。	業務の見直しを検討し、利用者一人ひとりと関われる様にする。また、利用者が職員へ話しかけ易い環境を整える。利用者の興味のあるものを把握したり、意欲を引き出せるようにし、楽しみながら行える事を提供できるように取り組む。	1年間
3	63	あまり面会に来ることが出来ない特定の家族との信頼関係希薄である。	全家族との信頼関係を築く。	家族の面会時等にて話す機会を持ち、より多くの情報収集を行う事によって不安な事や要望を引き出し対応する取り組む。また、面会に来ることが出来ない家族に対しては手紙や電話を利用して対応に取り組む。	1年間
4	37	自己決定できるように配慮しているが、職員が誘導したり決定している事も多く見られる。	利用者が自己決定出来るように働きかけていく。	本人の意志を各職員が意識して声かけを行い尊重できるように取り組んで行く。衣類等の選択などは時間をかけても利用者本人が決めるようにして行く。	1年間
5	47	薬の目的や副作用、用法、用量を正しく理解できていない部分がある。	薬を正しく理解する。	誤薬への意識は高いが利用者が何の為に、どのような薬を服薬しているか各自がお薬情報等で再度確認したり看護師に指導して頂き、副作用や症状の変化等に気付き直ぐに対応できるように取り組む。	1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。